

第3回丹後管内二級河川流域治水協議会の開催結果

■開催日時：令和3年11月22日（月） 10：00～11：30

■開催方法：Web 会議<zoom>

■参加者：9名（別表参照）

結 果

■大手川、野田川、竹野川、福田川、佐濃谷川及び川上谷川の流域治水プロジェクトを策定した。

■管内の他の二級河川についても流域治水プロジェクト策定に向けた検討を開始することとなった。

主な発言内容

【開会挨拶（京都府建設交通部長）】

- ・昨今、温暖化等の影響により雨の降り方は激しくなっており、想定以上の降雨の際は、当然被害が出てしまうことから、これからの雨の降り方に対する安全確保の考え方を見直していかなければならない。しかしながら、全てをハード整備で対応することができないのが現状である。
- ・被害を最小限に抑えるため、ハード整備はもとより、さらに、それ以外の部局と力を合わせて対応していくことや、事業効果が早期に発現できることから順次進めていくといった手法により、各水系においてあらゆる関係者と協力し、流域治水を推進していくのでご協力いただきたい。

【意見交換】

〈宮津市〉

- ・大手川水系においては、平成16年台風23号により宮津市街地で大規模な浸水被害をもたらしたが、国からの支援や京都府による迅速で精力的な整備により、平成30年7月豪雨による大手川の氾濫はなかったことから、市民の安心・安全に寄与していると感じている。
- ・流域治水の取組は非常に重要だと感じている。森林、砂防、河川などハード対策は多大な予算と時間を要するが、宮津市としても前向きに取り組んでいきたいので、京都府においてもご支援・ご協力願いたい。
- ・洪水ハザードマップ作成・周知や地区防災計画作成推進などのソフト対策の取組充実に加え、水田等を活用した雨水貯留機能の確保など新たな取組も検討が必要だと考えている。
- ・河口付近に堆積した土砂により河川への排水路がよく閉塞しており、内水被害につながる。流域治水の取組にあたっては海域も含めて考えることが重要である。

〈京丹後市〉

- ・流域治水プロジェクトは面的に状況が把握しやすく、事前にどう行動すべきかの材料になり得ることから、住民の皆様が防災・減災意識を持つきっかけやそれを向上させることにつながるだけでなく、治水をまちづくりへどのように活かすか考えるきっかけにもなると感じた。今後、PRに活用させていただくので、京都府においても住民に広く知れ渡るようにPRしていただきたい。
- ・流域治水の取組をまちづくりに活かすことに対して、これからの住民の取組を支援する助成策を

検討し、さらに展開をされていくとよいと感じた。

- ・京丹後市内においては、今回策定の4水系の他に6水系あるので、順次進めていただきたい。

〈伊根町〉

- ・伊根町民の通勤・通学及び物流の多くは野田川流域を通ることから、当該流域の水害が軽減されることは伊根町民の生活基盤の強化に十分つながるため、流域治水プロジェクトの効果に期待している。
- ・次期プロジェクトには筒川が選定されている。当該河川は平成29年台風18号に破堤し、浸水被害が発生した河川であり、現在は京都府により河川改修の計画が進められているところだが、大雨の度に住民が不安を抱きながら避難所に避難する状況が今も続いている。流域治水プロジェクトの取組により水害の軽減が図られ、地域住民の安心・安全につながることを期待している。

〈与謝野町〉

- ・野田川の河口から約11kmは改修が一定完了された。上流域の加悦地域においても平成16年台風23号により氾濫し、浸水被害が発生したが、京都府により短期間で改修いただき、地域住民は安心している。
- ・豪雨による浸水被害の防止にあたっては、京都府が河川改修を進めていただいている他、下流域の浚渫を実施していただいたことで、住民の安心感がより増したと実感している。一方で、山からの流木が非常に多いことから、橋梁に引っかかることによる河道閉塞の懸念があり、山林の多面的な機能を回復しない限り、なかなかハードだけでは難しいと感じている。
- ・既存の堰堤の土砂が堆積しているところがあるが、少しでも土砂を撤去していただければ、下流域への雨水流出量が一時的に抑えられ、時間稼ぎになると考えられるので、京都府に助言いただく中で、対応できればと思っている。

〈京都府丹後広域振興局 地域連携・振興部〉

- ・流域治水プロジェクトのロードマップに従い、各機関の取組が着実に進んでいくものと期待している。
- ・大雨による避難指示が出ても実際に避難行動をとる方が極めて少ないという現状から、流域治水プロジェクトを契機に改めて適切な避難行動をとるように呼びかけていきたい。また、自身の居住地の浸水、土砂崩れの危険性の確認あるいはハード整備が進んでも安心することなく、想定外の豪雨による浸水等の危険性があることを住民にしっかりと伝えることが必要である。
- ・市町と連携して地域防災リーダーの研修を実施していくとともに、流域治水プロジェクトの取組が進むことで治水安全度が上がっていくことを、より住民が身近に感じていただけるように分かりやすく伝えることが必要である。

〈京都府丹後広域振興局 農林商工部〉

- ・農林商工部は治山事業、森林整備事業の他、ため池の改修を行っている。丹後管内のため池のうち防災重点農業用ため池について毎年点検し、それ以外のため池についても適宜調査を行っている。併せてため池ハザードマップの作成が必要なため池について、令和3年度までに100%完成するように進めている。
- ・こういったハード・ソフト両面で防災・減災対策を進めていくことで、各機関と連携して流域治水プロジェクトの取組を推進していきたい。

〈京都府丹後広域振興局 建設部〉

- ・河川管理者として、マイクロ呑龍やため池などの流域の雨水貯留機能の向上は、下流域の流量負担

の軽減につながり、治山、森づくりによる森林機能の維持・増進は、河川の流下能力に影響を与える有害な土砂流出の防止の効果につながるものとして期待している。

- ・様々な施策が一つのテーブルの上に乗って、連携しながら取組を進めていくことはそれぞれの流域での浸水被害の軽減や気候変動に伴う降雨パターンの多様化への対応につながるものと期待している。

〈京都府港湾局〉

- ・港湾局は流域の末端を担っているが、近年、豪雨による土砂流出が多く、小規模河川においても河口まで土砂流出があったことを記憶している。土木事務所と連携しながら浚渫を進めていきたい。
- ・河川改修は費用と時間を要する中、野田川の河口部の浚渫は非常に有効で、住民の安心感につながっていると認識している。阿蘇海の浚渫は港湾という特性上難しいが、土木事務所と連携しながら可能な範囲で進めていきたい。
- ・久美浜湾についても土砂管理の課題があるので、可能な限り進めていきたい。

〈事務局〉

- ・流域治水プロジェクトのとりまとめに当たり、各機関ご協力いただき感謝する。他の水系でも策定を進めていくので、引き続きご協力をお願いしたい。
- ・土砂の浚渫については、緊急浚渫推進事業について5カ年の中で予算を確保しながら進めているところ。堆積の度合いや条件によるが、河川以外にも砂防ダムなどに適用できる。土砂収支の考え方から、上流域で浚渫すると下流域の土砂が堆積しにくくなるといったように、流域全体で掘れるところから掘っていくことが大事である。
- ・PRについては、京都府も力を入れていきたい。その上で、PRを住民にどう伝えるかが大事だと考えている。よい取組があれば情報提供願いたい。

〈京都府建設交通部長 閉会挨拶〉

- ・各機関とも最後まで熱心な議論をいただいた。地域の方と連携を深める、あるいは、まちづくりの設計思想に活かしていくなどの意見があった。これらを念頭に置いて、治水の分野のみならず広い視野で考えているところだが、足りないところもある。
- ・今後とも御協力いただき、安全で暮らしやすいまちづくりを進めていきたい。